



日本小児アレルギー学会

Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology

理事長ニュースレター

日本小児アレルギー学会第13期理事長 藤澤隆夫

2016.5.12 発行 (第3号)

はじめに

ニュースレター第3号をお届けします。会員の先生方による活動成果のアップデートです。第1号では2014年11月から2015年1月までの3ヶ月間を、第2号では2015年2月から11月(前半)までの約9ヶ月間をカバーいたしました。本号では2015年11月(後半)より2016年4月までの約6ヶ月の活動報告です。

会員数 4000 名を超える

1966年4月(昭和41年)に設立された本学会は50周年の節目を迎えました。これまで諸先輩先生方のご努力により成長を続け、おかげさまで2016年4月30日現在、4007名と4000の大台を超えることができました。多くの先生方の学会活動へのご参加は、まさに、大きな力です。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

熊本地震支援活動について : 2016年4月

2016年(平成28年)4月の熊本地震では、被害にあわれました方々に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を祈念いたしております。本学会は主に小児アレルギー疾患に関わる分野において被災者の皆様を支援すべき社会的責務があります。東日本大震災の教訓から、これまで「災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット(一般の方および医療従事者向け)」や「災害派遣医療スタッフ向けのアレルギー児対応マニュアル(医療従事者向け)」の作成・配布などを行ってまいりましたが、今回の大災害に際しても、発災後まもなくから多くの会員有志が立ち上がられ、支援の輪を作ってくださいました。以下、本学会としての主な活動をまとめます。

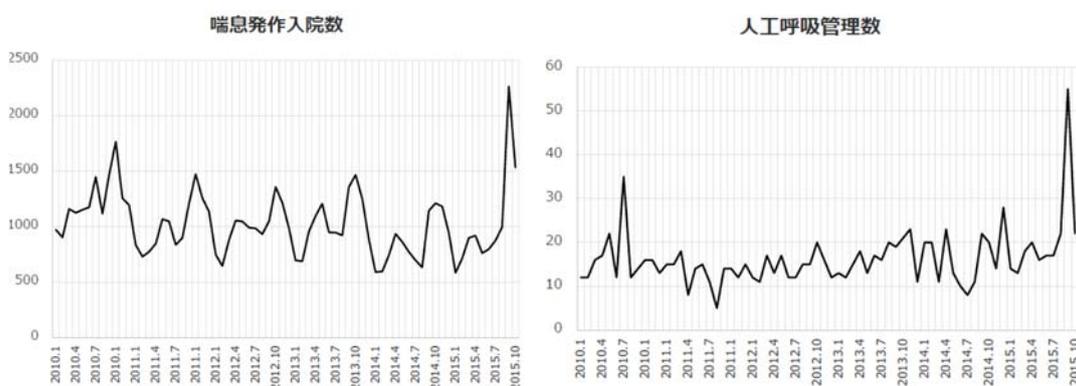
- 1) 学会ホームページ上の相談窓口案内
- 2) アレルゲン除去食品の供給体制づくり
 - ・ 国立病院機構福岡病院によるアレルギー分野支援委員会の設立と支援物資受入れ
 - ・ 国立病院機構熊本医療センターによる配布場所提供
 - ・ 国立病院機構の協力による支援物資受け入れ/輸送体制の確立
 - ・ 日本栄養士会の協力による被災現場ニーズの把握と被災地への配布

アレルギー患者支援とは、発災直後から、時には数ヶ月に及ぶ避難所生活の時期まで、広く長期にわたるものです。まず、発災時はすべての必需品が枯渇する中で、食物アレルギー患者へのアレルゲン除去食を確保しなければなりません。続いて、悪化した生活環境の中で起こる疾患の急性増悪（アナフィラキシーや喘息発作など）への対応と予防、そして長引く避難所生活の中での疾患コントロール悪化対策と予防が求められます。これらについて、どのように支援していくのか？ もちろん、刻々と変化する状況への臨機応変の対応は必須ですが、今回の経験を通して、日頃からの体制作りが重要であることを痛感いたしました。学会の役割は、災害支援活動全体の中で、アレルギー疾患患者支援を担当することであり、そのために多方面の力をコーディネートすることと存じます。今後とも災害対応ワーキンググループ委員長の足立先生を中心に活動を続けますので、ご意見をよろしくお願いします。

エンテロウイルス D68 流行に関連した喘息発作入院全国調査：2015 年秋

2015年9月、喘息発作入院が全国的に急増して、エンテロウイルスD68（EV-D68）との関連が疑われました。同時に多発した急性弛緩性麻痺については厚生労働省通達により積極的疫学調査が行われた一方、喘息の“アウトブレイク”に関してはベースラインの発作入院データが存在しなかったことから多発とは結論づけられず、積極的調査の対象にはなりませんでしたが、今回の喘息発作“アウトブレイク”の事実を「時を逸せず」明らかにすることは非常に重要です。そこで、本学会としまして、喘息入院例を対象にした全国調査（2010年～2015年9月）を実施しました。

その結果、全国157施設のご協力をいただいて喘息発作入院 87,189例が登録され、確かにEV-D68流行と一致するピークが確認されました（下図）。喘息増悪がウイルス感染の影響を受けることはよく知られていますが、改めて、そのインパクトの大きさが示されたと言えるでしょう。この結果は次の“アウトブレイク”への迅速な対応に活用されることと存じます。ご多忙の中、ご協力いただきました先生方に心よりお礼を申し上げます。なお、最終結果は現在、英文誌投稿準備中ですが、中間集計77,281例の結果につきましては、国立感染症研究所発行の「病原微生物検出情報（IASR）」に報告いたしました¹⁾。



1) 是松聖悟, 三浦克志, 長谷川俊史, 長尾みづほ, 中村晴奈, 杉浦至郎, 岡田賢司, 藤澤隆夫.

エンテロウイルスD68型流行期における小児気管支喘息発作例の全国調査. *IASR* 2016; 37: 31-33.

メディカルライティングセミナー開催 2016年2月13日

本学会は、臨床研究に取り組まれる会員の皆様を対象に、2015年9月に第1回臨床研究支援セミナー（Clinical Research Seminar; CReSS）を開催しました（ニュースレター第2号）。CReSS はリサーチクエスションの構造化、研究計画の立て方、統計、倫理など臨床研究実施に必要なノウハウを学ぶものでしたが、ゴールは研究成果の論文化です。そこで、今回はメディカルライティングセミナーを開催、論文執筆のコツを学んでいただきました。全国から若手の先生を中心に76名の参加があり、活気に満ちた会となりました。会員の先生方による論文「量産」を期待します。

第1回メディカルライティングセミナープログラム

10:00~12:00	論文執筆の基本 （アラメディック株式会社代表取締役，日本メディカルライター協会評議員）	林健一先生
	・IMRDにしたがった論文の書き方とツボ ・学会抄録の書き方	
13:00~14:50	論文に必要な英語表現 （東京医科大学 医学教育学分野 准教授）	R. ブルーヘルマンズ先生
	・カバーレターの書き方，レビューアーへの対応 ・日本人が間違いやすい誤表現	
15:00~16:50	基本的な統計手法の使い方 （中央大学理工学部教授，日本メディカルライター協会理事長）	大橋靖雄先生

今後の予定

2016年8月20-21日 第2回臨床研究支援セミナー 於：セミナーハウスクロスウェーブ船橋
2017年2月（未定） 第2回メディカルライティングセミナー

平成27年度日本小児アレルギー学会「支援研究」

小児アレルギー分野の臨床研究を推進し、日本発のエビデンスを創出するため、本学会では会員による独創的研究に助成金を交付しております。今年度の「支援研究」には6課題の応募があり、厳正なる審査の結果、以下の研究課題が採択されました。

「小児食物アレルギー児とその養育者の日本語QOL調査質問紙の開発と有用性の検討」
【研究代表者】国立病院機構福岡病院小児科 本村知華子先生

平成27年度日本小児アレルギー学会「協力研究」

エビデンスレベルの高い臨床研究の完成には十分な症例数確保が必須ながら、症例登録はしばしば困難です、そこで本学会は、競争的研究費を獲得されて臨床研究を遂行しておられる会員を応援すべく、「協力研究」と位置づけて症例登録などのお手伝いを行うこととしました。随時公募中ですが、本年度の学会「協力研究」は以下の通りです。

「乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の増悪抑制効果に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験：Daily versus Intermittent inhaled Fluticasone in Toddlers with recurrent wheezing）DIFTO スタディ」

【研究代表者】東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科 勝沼俊雄先生

学会誌はオンライン査読システムへ

日本小児アレルギー学会誌は第30巻第1号より編集業務を出版社に委託するとともに、オンライン投稿査読システム(Editorial Manager)を導入しました。より質が高く効率的な論文出版が可能となりましたので、さらなるご寄稿をよろしくお願いいたします。

食物アレルギー診療ガイドライン改訂作業進む：2016年秋刊行予定

食物アレルギー委員会 委員長：海老澤元宏先生、副委員長：伊藤浩明先生のリーダーシップの下、最新のエビデンスを取り入れた大幅な改訂版作成作業はいよいよ大詰めとなりました。日本の食物アレルギー診療の均てん化、レベルアップが期待されます。

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン改訂：2017年秋刊行予定

ガイドライン委員会 委員長：荒川浩一先生、副委員長：足立雄一先生 海老澤元宏先生のリーダーシップの下、改訂作業が始まりました。次期改訂版はEBMの考え方に則り、Minds推奨の方法で作成します。今回は患者代表を含む外部委員にもご参加いただくとともに、新たにシステマティックレビュー(SR)チームをアクティブな若手の先生方で構成(公募による選任)、EBMを目指します。SRは3月下旬に国立成育医療研究センター・政策科学研究部(コクラン日本支部事務局長)の大田えりか先生をお迎えしての講習会を皮切りに、現在精力的に作業が進行中です。執筆協力者にも若手が起用され、刷新が図られる予定です。ご期待ください。

第13期理事会メール審議一覧(2015年11月後半～2016年4月)

2015年11月(後半)以降、理事会にお願いしました審議課題及び報告事項一覧です。各委員会、WGでも活発な審議が行われています。ご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

- No.16 20151113 小児気管支喘息・治療管理ガイドライン
：新JPGL作成組織について、新JPGLの構成について
…承認
- No.17 20160122 特定個人情報等取扱規程(案)について
…承認
- No.18 20160302 日本小児科学会より平成28年度治験候補薬及び治験候補機器等推薦について
…今回は推薦無し
- No.19 20160414 社会保険委員1名増員について
…昭和大学 今井孝成先生

編集後記

学会の責務は、最新の治療情報や会員の研究成果をすべての会員の先生方に提供して、我が国の小児アレルギー学の一層の向上を目指すことです。学術大会の開催、ガイドラインの発行などはその一環ですが、さらなる改善のために、会員の皆様のご要望、ご提案をお待ちしています。どうかよろしくお願いいたします。